



ウメさんの母と子のための健康講話 (11)

(体験談編)

自然分娩は、ないように思われて来ている中で、「あるんだよ」と話して来ました。やっぱり自分のお産を話してみたいという気持ちになって来ました。助産婦学校を卒業して、結婚してから3か月目で妊娠して34才で長女を生まれました。今は甘いものを好まないが、その当時は、羊羹(ようかん)1本とか、大きいアイスを2個とか、店の前を通るとカレーの匂いにつられて中に入り、カレーの大盛を食べるとか、こんなことを2週間も続けたことがありました。

出産は、家の近くにある産婦人科を選びました。するとカルテの右肩に(高)と判を押されましたが、その後の定期健診では、いつも異常なしと言われました。37週から(つまり10ヶ月に入ると)週1回の健診になります。39週の健診の時、「予定日より遅れるかもしれない」と言われました。それが、予定日の2日前の早朝4時に、急におなかが痛くなり、何か悪い物でも食べたのかと、前日食べた物を思い浮かべておりました。何回もトイレに通いました。風呂に入って、体を温めると治るかと思っただけはみたものの、治るところか時間を切って痛さが増して来る。今度は目覚まし時計を持って風呂に入る。2~3分間隔で痛くなって来たので、これは「陣痛だ」と思い、病院に電話した。先生は、何日か前の診察の頭でいる。電話を切って風呂場に戻る途中で、おどり場の板の上に、「バシャー」と破水した。おしりの後ろから手を回してみると、「ボコッ」と丸い

ものが触れた。再度、病院に電話を入れると、先生は、「病院が近くだから、ひとりでも行けると誰かが(注、ウメさんがという意味)言っていたよね」と、憎まれ口を言う。でも、そんなことには構わず、急いで病院に向かった。病院の駐車場から病院の玄関まで、やっとのことで着いた。この時もまだ先生は「朝から電話してどうした」と言う。健診の時は、良い先生だなあと思っていたが、この時ばかりは、悪い先生だとしか思えなかった。「いいわよ、私は病院で赤ちゃんを生まれました、ただし、病院の玄関の靴の上に生まれましたと皆に言ってやる」と、しゃがみ込みました。すると先生もその気になったのか、私を診察室に連れて行った。私に人差し指を向けて、「これから絶対いきまなよ。いいか、わかっているよね」と言いながら、「旦那さん、一緒に奥さんを運んで」と2人に分娩台に乗せられた。乗った途端、赤ちゃんが「おぎゃー、おぎゃー」と泣き出した。それからしばらくして胎盤が出て来た。これは生んだ人でなければ分からない快感です。

「次はゆっくりしたお産をしたい」と思った。赤ちゃんの1ヶ月健診の時、「先生、ひとりでやめておいたほうがいいですか。また(高)と判を押されるから」と言うと、「今度は、(高)はないよ。高齢だが初産婦じゃないからな。3回位、生理があったら、次の子を作るといいね。あなたは忘れっぽいから、作り方を忘れないうちにね」と又々憎らしいことを言っている。

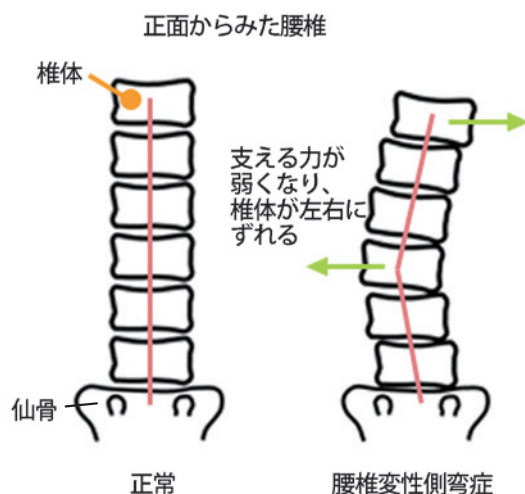
洋先生のせぼねセミナー

シリーズ⑮ ようついでんせいそくわんしゅう 腰椎変性側弯症

加齢にともなって椎体と椎体のつなぎ目が変性して弱くなり、側弯が進んでくることがあります。このため、脊柱を支えている筋肉や土台にあたる骨盤(とくに仙腸関節)にも負担がかかり、腰痛を生じます。コルセットによって腰椎や骨盤を固定したり、痛みの原因部位への麻酔薬の注射(トリガーポイントブロックや仙腸関節ブロック)、外用や内服の鎮痛剤や漢方薬、体操やマッサージ、鍼といった治療で痛みは多くの場合コントロール可能です。

しかしながら側弯の進行とともに回旋変形(脊柱のねじれ)が生じると、神経の通り道である脊柱管狭窄が進み、坐骨神経痛や歩行障害を生じることもあります。また後弯変形(腰曲がり)を伴うと、常に前かがみ姿勢となり立位保持が困難になります。このような高度な変形や神経症状で日常生活が困難な場合は手術が選択され

ることがあります。神経の圧迫を取り除く手術だけでなく、脊柱変形の矯正を行い、特殊な金属のスクリューやロッドで固定する大がかりな手術になることも多いので、経験をつんだ脊椎脊髄病専門医のいる病院で行われています。



●患者さんの声●

60代の男性、長身でやや痩せ型の方です。40代から腰背部痛があり、3か月前には自転車で転び、背骨を圧迫骨折してしまいました。レントゲンでは第11胸椎が大きく変形しており、その部分で亀の甲のように背中が曲がっています。睡眠時間を削って長時間のデスクワークをするため、疲労やイライラが蓄積し、痰がらみの咳もあります。また座位ではとくに姿勢が悪くなり腹部が圧迫されるためか、肋骨の下の部分が痛くなり、胸やけがあるため強力な制酸剤を服用しています。漢方医学的には、舌が白っぽく腫大して、腹診では下腹部に力がないにもかかわらず、腹直筋が緊張し肋骨の下が張って痛むことなどから、「気血両虚」「肝気鬱結(かんきょうけつ)」と判断して、人参養栄湯(にんじんようえいとう)と四逆散(しぎゃくさん)を処方しました。すると2日くらいで効果が出始め、2週間後「痛みは半分以上よくなった!」「あれ!?っていうくらいに違う」とのこと。腰背部や肋骨の下の張るような痛みが驚くほどよくなると同時に咳も出なくなり、いつしか制酸剤をのまなくても胸焼けしなくなりました。

まきようクリニック

つばめ日記



⑧4 だいおうかんそうとう 大黄甘草湯 絵 エコピー

